

私たちの闘病生活

香川県立観音寺第一高等学校 1年 津田優沙

最近のニュースでは当たり前のように、十代のソーシャルメディアの利用実態や、事例、問題などが取り上げられているが、その問題は私にとってとても身近なものに感じどう改善していくことが大切なのかを知るため、現在ソーシャルメディアが原因で起こっている問題を調べた。ソーシャルメディア通称 SNS とは、インターネットを通じて、人と人をつなぐコミュニケーションツールの総称であるが、言わば私たちにとって、病原菌のようなものだ。SNS 依存症という病へと導くものになりうる存在でもある。

私を取り上げた問題は大きく分けて二つある。

まずは「LINE いじめ」について。この問題について述べる前に言っておかなければならないことがある。それは、現在では高校生の約 9 割が SNS を利用しており、SNS がなければ生活が難しいという状況になっているということだ。特にその代表的な SNS は「LINE」であると言える。LINE は電話番号を入れるだけで簡単に登録ができ、いつでもメッセージをチャットのように素早くやりとりすることができるため、SNS の中でも利用者が多い。やはり利用者が多い分利点も多いが、その分様々な問題が起きている。そこで、SNS の中でも特に LINE いじめについて考えてみた。これは、ティーンの間でよく行われており、こういった SNS いじめは現実には起きているいじめを深刻化させ、被害者に深いダメージを与えるものとなっている。更にこれが原因で大切な命を自ら絶ってしまう人もいる。ではそもそも、なぜ LINE いじめが起きてしまうのか、何が原因なのか。調べてみると「既読が遅い」、「既読がついているのに返信がこない」などというあまりにも単純なものであることが多いということがわかった。ここではいじめを行っている者を加害者と表現するが、加害者の心理を理解することが解決への一歩になるのではないかと思い、加害者の心理についても調べた。それは、自分も知らない間に、常に相手が自分のことをどう思っているのか確認したいという思いにとらわれ、いつまでも相手の反応が確認できないことが苛立ちに変わってしまうというものだった。苛立ちを感じるのは個人差が大きいですが、相手の反応が気になるという心理は SNS を使っている人の多くに当てはまるものだ。しかし、この心理を理解したうえで対策を考えるとすると、まず言えることは「SNS をつかわせない」、「スマートフォンを取り上げる」などという行動は全く意味がなく何の問題解決にもならないということだ。先ほども述べたように、今の世の中 SNS なしで生活を行うことは大変難しく、また子どもにとって携帯やスマートフォンはとても大切で、取り上げられることを恐れており、トラブルがあったのに相談せずに隠してしまうという新たな問題へと発展してしまうからである。こういう問題は、大人でも解決することが難しいのにましてや子ども一人に抱え込ませていいわけがない。これは家族みんなで一緒に解決すべき問題であり、安易にスマ

スマートフォンを取り上げて解決しようとするべきではない。また親子の間で、学校であったことを話したり LINE で友達とどういふ話をしているのかなどを少しでもいいから話し合う時間を毎日の生活の中で積極的に作る事が大切になってくる。

次に私が取り上げた問題は「SNS 犯罪」についてだ。出会い系サイトに登録したことが原因で性犯罪の被害にあったり、ストーカー被害にあったり、また不正アクセスをすることを楽しんだり、「SNS ウケ」を狙って行き過ぎた行為をしてしまうなど、SNS が原因で起こる問題は少なくない。SNS は時に使用者に何者にでもなれるという過信を与えてしまうことがある。実生活では、外見、コミュニケーション能力、勉強、スポーツなどの能力がものを言う。それに比べてオンラインでの生活は、自分をコントロールすることができ、理想の自分を演じたりすることができる。これが出会い系サイトにハマってしまう大きな要因だと考えられる。出会い系サイトでは、少し動画を配信するだけで、見知らぬ男性などから好意的なコメントが寄せられ、自分がアイドルにでもなったかのような気分になってしまう。これが原因でプライバシー情報が洩れてストーカー被害につながることもある、ということを知らずに利用してしまっているのだ。また、知っていても自分は大丈夫だろう、そんな被害にはあわないだろうなどという謎の安心感を持って利用してしまっている人もいる。つまりは、ネット上の見知らぬ人と繋がることに危機感を覚えていないのだ。また、他人のシステムやコンピューターを不正な手段で操作し、セキュリティを破ることで自分の力を周囲の人に見せつけようとする人たちが最近とても増加している。この人達は、自己顕示欲という、自分の存在を多くの人にアピールしたいという欲が歪んだ形で暴走し過激化してしまっているのだ。他人に見てほしい、自分の個性を主張し認めてほしいという思いがとても強いのだ。第一、SNS 使用者には承認欲求がとても多い。承認欲求とは、他人から認められたいという思いと同時に、自己肯定できる自分でありたいと思うことである。これが SNS で暴走し、周囲に迷惑をかけてしまう根本的な心理だと言える。そこで、大切なのは SNS は義務ではなく、自分が楽しむために利用するものだというのを忘れないことだ。SNS にハマり、そのせいで SNS に疲れ、SNS 依存症になってしまうとき、自分が SNS の向こう側にいる人たちに支配されているということに気づかなければならない。そして、SNS を使うことで自分がマイナスな気分になっていると感じたらすぐに使用を控える必要がある。あくまで、主体は人間にあり、SNS に使われていると感じた時点で一度 SNS から自らの意思で離れるようにしなければならない。また、SNS 内の行為にばかりを気にすることもやめる必要がある。SNS 内での友達が多いからといって、本当の友達が多いということにはならないし、周囲からの反応などが多いからといって偉いわけでもない。周囲の目を気にし、周囲の期待に添えるように自分を演じてしまわないようにしなければならない。本当に必要なことは、変わろうとする勇気、嫌われる勇気を持つことで、この勇気を持つことができたとき本来の自分を取り戻すことができるだろう。

今もなお進化を続け、これからももっと進化してゆく SNS。進化とともに変化し、増加していくと考えられている SNS 問題。この変わりゆく SNS 問題を具体的に解決することは大変難しいことである。しかし、SNS に潜む危険や不自然さを知っている人と知らない人では大きな差が生じる。知っているひとは、SNS との付き合い方などが変わり、トラブルを未然に防ぐことさえ可能になると考えられている。SNS という正体不明なものとうまく付き合いしていくことは簡単なことではない。だからこそ、常に SNS の危険や違和感などを知ることが大切である。また、現在起こっている SNS 問題に少しでも耳を傾け、自分と身近な問題であるということを全ての SNS 使用者に自覚してほしい。事件や事故、いじめなどはすぐそばで起こっている。自分もいつトラブルに巻き込まれるかわからない状況に置かれているということを自覚することが大切である。

■参考文献

出典：高橋暁子 幻冬舎エデュケーション新書「ソーシャルメディア中毒 つなかりに溺れる人たち」

出典：総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当
インターネットトラベル事例集（平成 29 年度版）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html